

# 漁況海況予報事業 浅海定線調査

## ——陸奥湾——

### (要 約)

尾坂 康・仲村 俊毅・植木 龍夫・早川 豊  
三津谷 正・浜田 勝雄・鈴木 勝男

この調査は、陸奥湾内の海況の特徴や変化を把握し、湾内漁業および増養殖業のための予報やその健全な発展に資することを目的として実施したものである。詳細については、脚註の資料に報告済みであるのでこれを参照されたい。

#### 調 査 方 法

調 査 地 点…… 6 定点、毎月 1 回、年 12 回観測

調 査 水 深…… 0、5、10、20、30、40、50 m および底層

調 査 項 目…… 水温、塩分、COD、クロロフィル a、水色、透明度、PH、卵稚魚、  
プランクトン、気象、海底土の強熱減量、含泥量、全硫化物量

#### 調 査 結 果

- (1) 水温は、8月の月上旬に表層で 24.4 ~ 25.6 °C の最高水温が観測され、最低水温は、2月 ~ 3月に 5 ~ 7 °C が観測された。
- (2) 塩分は、8 ~ 10月に St 1, 2 の底層で 34.1 ~ 34.2 ‰ の高塩分がみられ、優勢な津軽暖流水の流入が認められた。最低塩分は、6月の表層で 31.6 ~ 32.3 ‰ が観測された。
- (3) COD は、0.07 ~ 2.6 ppm の範囲にあり、6、9、10、12月に高い傾向を示した。
- (4) クロロフィル a 量は、0.08 ~ 2.08 mg / m<sup>3</sup> の範囲にあった。
- (5) 透明度は、8.0 ~ 21.0 m の範囲にあり、6、8、1月に高く、4、3月は低い値であった。
- (6) PH は、8.2 ~ 8.4 の範囲にあった。水色は、3 ~ 5 の範囲にあった。
- (7) 卵、稚魚は、8月を中心に 6 ~ 10月にかけて種組成、個体数とも多く、特に 8月の St 4 でカタクチイワシと思われるシラス型稚魚が 178 尾採集された。動物プランクトンも 7 ~ 8月を中心に多く、枝魚類、橈脚類は、周年出現した。
- (8) 動物プランクトンは、春から秋頃にかけて *Nitzschia seriata*, *Chaetoceros decipiens*, *Ch. affinis*, *Ch. didymus* がみられ、冬期には、*Thalassiosira mala*, *Coscinodiscus waillesii*, *Nitzschia seriata* がみられた。
- (9) 海底土の強熱減量は、6 ~ 16% の範囲にあった。含泥量は、St. 2, 3, 4 で 80% 以上と高い値を示した。全硫化物量は、0.08 ~ 0.59 mg / g の範囲であった。

詳細については、「昭和53年度漁況海況予報事業浅海定線調査、青森県水産増殖センター、昭和53年3月」に報告済み。